



お母さん、お父さん ありがとう

社会の役に立つ人間になりたい

ナーリカ・ディルルクシ・グナラトナ(女子15才)

教育は人の将来を左右し、人生を成功に導くものです。そうした将来の成功の為に貧しい家庭の私たちに援助して下さるのが日本の里親さんたちです。私たちの国は発展途上国ですが自然が美しい国です。社会の経済的に恵まれない子供や、父親か母親、あるいは両親ともいない罪のない子供たちに、初等教育から高等教育まで継続して勉強できるように、日本の里親さんたちが影のようになって援助して下さっていることは大変意義深いことです。ともすれば中等教育さえ受けられない私たちに、高等教育まで受けられるように援助して下さる里親さん方に感謝いたします。私たちは学校の勉強のほかにも運動や芸術方面でも良い成績を修めることが出来ています。勉強することはしばしば茨の道にたとえられますが、その先には美しい花のような結果が待っていることでしょう。



私たちのセンターには里子の会があります。それは私たちの地方にいる奨学生以外の子供たちにも励みになっています。

愛する日本のお母さんお父さん、私たちはあなた方のスリランカの子供です。私たちはあなた方を本当の母や父のように愛します。私たちは二つの国に分かれていても一つの世界にいます。

私たちに与えて下さるご援助によって一生懸命勉強して立派な社会人となり、香りの良い花のように国や社会に役立つ人間になります。

里子たちの代表として、このメッセージを送ることができたことに感謝します。ありがとうございました。

ナワマダガマ・センター(71)No.3344(13年生)

里子は精一杯書きました。子供たちの心をより深く理解するために、“編集にあたって”(P-10)を先ずお読みになることをお勧めします。



の間に親密な交流関係が築かれることを希望しています。また両国の特有な文化を知らせ合うことも有意義なことです。この目的で手紙の交換も行っています。また色々な報告書を出

“発刊にあたって”

“発刊にあたって”

SNECC

M・チャンドシリ事務局長

したり、研修ツアーもしました。これらのことは日本の里親さんと里子たちの間の交流を深めることに貢献しています。今回CPIはまた一歩前進して「こんにちには」という新しい里親新聞を今年一月に里子たちのために出してくれました。日本の里親さんたちの考えを入れたこの新聞はとてもやさしく作ってありますので子供たちに大変好評でした。そして、今回里子からのメッセージを載せた里子新聞「ステューテイ」第一号を皆さまにお届けします。日本語で「ありがとう」という意味です。スリランカの各センターが協力し、コッテセクターが翻訳し編集しました。この編集にあたりCPIの本部スタッフの多大な協力に感謝します。子供たちの情報に主要なスポットを当てて作ってありますので、日本の里親さんたちにきつと満足なさしあげられると思います。引き続きこの新聞が発行できるようにがんばります。日本とスリランカの友好親善のために私たちは一致団結しましょう。

この新聞は継続して発行してゆきます。暖かく見守ってください。皆様のご意見をお寄せください。

奨学生、全国からコーツテ・センターに集合

2003年度 認証式盛大に開かれました

コーツテ・センターで全国の奨学生が集まって認証式が行われました。子供たちの夢と希望に満ちた瞳が、センターのグラウンドに作られたテントの中に輝いていました。子供たちに思い出と感想を書いてもらいました。



将来の夢をいただきました

L・A・ディヌーシャ・ラクマーリ(大学2年生)

2003年1月16日は奨学金受給生全員にとって意義深い日になったことは間違いありません。今年17回目を迎える奨学金授与式は大勢の人が参加し盛大に行われました。全国から奨学生全員が集まったのは5年ぶりでした。

ラニール総理大臣やその他の大臣達、日本の里親さんも多数出席されたことは参加者全員を喜ばせました。奨学生達が尊敬してやまないC.P.I.小西会長、ウスイ・ランカ(株)薄井会長は、初めから現在にいたるまで、奨学生を援助し、私たちの影のようになり支えてくれています。これまで戦争のため、式に出られなかったスリランカ北東部の奨学生達が今回参加できたことも大変喜ばしいことです。奨学生みんなを神様のように助けてくださる日本の里親さん方を自分の目で見る事が出来るほど嬉しいことはありません。1月16日2時半に始まった奨学金授与式はこの日夕方に行われました。式は奨学生の私たちに将来の夢をたくさんくれました。

コーツテ・センター(1)U55、

スリ・ジャヤワルダナプラ大学2年、女子



ココナツの森(CPI里子の絵画集より)

里親さんに感謝を忘れません

S・P・スブン・プリヤンカラ・クラトウंगा(14才)

私たちのセンターはデラニヤガラという美しい町にあります。奨学金申請の為、私に関するデータを全てセンターに提出したところ、それらをよく吟味した後、センター長のお坊さんは私を奨学生の一人に選んでくれました。



田舎に住む貧しい子供である私は、この知らせを聞いて言葉で言えないくらい嬉しかったです。私の両親も大変喜んでくれました。当日は認証式に出席する為、センター長のお坊さんや他の学生達と一緒にコーツテ本部センターに来ました。

スリランカ総理大臣を主賓とするこの式は午後2時に始まりました。他にも大臣がたくさん出席しました。日本からもC.P.I.会長や里親さんが多数出席しました。ジャフナ、アヌラダプラなどスリランカ全土から101のセンターの奨学生が2500人くらい奨学金を受けに来ました。エリヤセンターのリーダーのお坊さんも100人来ました。式は3時間ほどに及び、5時に終わりました。式の終わりに皆学用品を詰めたかばんをもらい、皆嬉しそうな顔をしていました。式に出席した里親さんはスピーチをして、「国や社会の為に役に立つ人になるように努力なさい」といいました。このような奨学金制度を続けていращやる里親さんたちは私達にとって学ぶべき良いお手本です。学業優秀な学生達への援助は大変価値のあるものです。

この制度を続けていращやるC.P.I.やスリランカ日本教育文化センターの方々、里親の皆さんを心から尊敬し、感謝致します。

デラニヤガラ・センター(46) No.4996 9年(男子)

(注) デラニヤガラはコロンボの東南約60km、宝石の産出で有名なラトナプラの北にあります。

里親さん、ありがとう わたしは 新・奨学生です。

ガヤーン・ディネーシ・ヤーリング
(男子、13 才)



スリランカの田舎に生まれた純真な子供たちを応援する日本の里親さんにお礼を言います。私も里親さんたちが与えてくださる奨学金をもらう奨学生に認定されました。

1 月 16 日、奨学生認証式に出席する為、私は他の学生達 18 人と一緒にバスでアクラナからコートテ本部センターに来ました。アクラナはキャンディから約 10km 北にあります。コートテに来る途中、キャンディで仏歯寺に寄りました。またスリランカの高地地方の美しい山や川を幾つも通って来ました。コートテまで 5 時間かかりました。コートテについた後、2 時に式が始まりました。式では、お坊さんや大臣やCPIの人たちの話がありました。

この日、私と同じようにたくさんの学生たちに学用品や靴が与えられました。私が里親さんから受けたように他の学生たちもそれぞれの里親さんから愛、優しさ、そして学用品や学費(注:補習費)などの援助を受けたことは幸運だと思いました。

遠い国で暮らしている私の里親さんを自分の目を見て、(スリランカのやり方で) ひざまずいて、その御足に触れ、直接お礼をいえなかったのは残念です。私たちにとって、それほど大変価値のある奨学金なのです。

私達は、センター長が計画をして、帰りもいろいろな所を観光して帰ることが出来ました。動物園に行ったり、テレビ局に行ったり、港や国会議事堂にも行き、いろいろな体験をしました。初めて行くところばかりで、とても勉強になりました。これらはすべて日本の里親さん方のお陰です。改めて心から感謝致します。

アクラナ・センター(43)
No.5116(9 年生)



(里子たちは地区センター毎にバスに乗って帰路に着く。背中のバッグには学用品が入っています)

両国の友好関係のおかげです

ルウィンディ・イシャンカー(女子、15 才)

日本の奨学金を受ける学生に選ばれたことは最高の幸運だと私は思います。なぜなら私の学業、そして他の全ての活動もこの奨学金によって援助してもらえるからです。1 月に行われた奨学生認証式は、私はとても嬉しかったです。

この日本の奨学金が私たちのような子供たちに与えられることは、日本とスリランカの友好関係の賜物です。日本とスリランカの友好を深める中で、スリランカの子供たちの学業と将来の自立の為に努力して下さる、日本の里親さんやスリランカ日本教育文化センターの方々に、心から感謝いたします。

我が国の多くの貧しい子供達の将来の為に、援助して下さる親切で献身的な日本やスリランカの人々がいることを、私は誇りに思います。また、様々な経済的困難の中で苦勞して勉強を続ける貧しい子供達と彼らの家族に援助する皆さんのような日本人がいらっしやることを素晴らしいと思います。1 月に行われた奨学生認証式を思い起こすと、この日、式に出席した2000 人の子供達は心から嬉しかったと思います。

自分の学業にとって大きな助けになるこの日本の奨学金を与えてくださった親切な日本のお母さんお父さん

たちに心から感謝したはずで皆さんのような気高い人々に対し心の中にある尊敬の気持ちは、文字に書いたり、言葉に言うことの出来ないほどです。これが里親の皆さんへの私の気持ちです。

コートテ・センター(1)
No.4509(11 年生)

お母さん、お父さんお元気ですか

里子からのメッセージです

私たち元気にがんばっています

『期待にこたえたい』

K・M・イレージャー(女子・13才)

今年二〇〇三年は日本とスリランカの国交樹立五〇周年にあたるので日本のお母さん、お父さんについて語るには良い機会だと思っています。桜咲く自然が美しい日本について、里親さん達は親切に教えてくださっています。スリランカの私たちの母や父が私たちの将来の成功を祈っているように、日本にいる里親さんたちもそれを祈ってくれています。日本の里親さんたちのご援助は私たちが将来立派な人間になる為に大変役立つと思います。私たちが私たちの国にある価値あるものについて誇りを持って語る時、日本の里親さんたちも日本にある良きものについて話してくれます。それを聞く時、日本がどのような国か想像することが出来ます。日本から私たちの教育の為に色々手伝ってください、私たちの良い将来を望む日本の、お母さんお父さんたちは私たちの本当の母や父だと思っと思っています。お母さんお父さんの期待に応えたいと思います。CPIと日本の里親さんに心から感謝いたします。

ガレウエフ・センター(54)No.5162(6年生)

『会えない遠くのお母さん、お父さんへ』

シトゥミニ・ニランジャラー(女子・21才)

愛するお母さん、お父さん、世界地図を見ていて、日本という文字を見つけた時、自分の家族や親戚に久しぶりに会った時のように嬉しくなります。子供のころ日本の里親さんから奨学金をもらえたと知った時、心を感じた嬉しさは言葉では表せないほどです。そのとき私と一緒に奨学金をもらった何人かは今、社会で立派な仕事をしています。また何人かは現在大学で学んでいます。その他の人たちは、もはやあのころのような子供ではなく、母親や父親になっていきます。皆、何らかの形で国に役立つ人間として社会の一員となり活躍しています。

私たちは皆、日本という言葉を知ると、自分の国のような気がします。日本のお母さんたちが自分のお金で小さな国の子供たちに援助するのは自分の本当の子供たちへするようないい気持ちでいらっしやるのだと思います。多分私たちは自分の目で里親さんたちを見ることは出来ないでしょう。でも私た



CPI 里子の絵画集より

「家族」(部分)

オンチニ(ブランコ)で遊ぶ女の子たち

㊦

ප්‍රතිච්ඡේද

㊦

お礼や感謝の意で、日本では「ありがとう」英語で「サンキュー」を良く使います。シンハラ語では、上のイラストの文字です。シンハラ語の発音は日本語では大変、表記しにくいのです。日本語にない発音ですので「ストゥーティ」「ステューティー」とか「イスチューティ」とか書かれますがどれも正しく言い表わされていないようです。とにかく心を込めて[Stutiya]と言えば通じます。

ちのことを思って援助してくれるもう一人の親が遠くにいるということ、また、里親さんとの縁組をしてくれたのが私たちのセンターのお坊さんだということは一生私たちの心に残るでしょう。世界で人間性が失われている昨今、自分以外の人のことを思うことが出来る人達が二十一世紀の世界にもいると言う事を私たちはいつも思い出すでしょう。私は後一年で大学を卒業します。スリランカでは就職は大変難しいです。でも、一生懸命頑張って成果を出したいと思っています。

(現在ワルダナプラ大学生・No.42)

バドゥワ・センター(40)の出身No.1322

『日本が大好き、日本語も大好き!』

W・A・チャラニ・ニサンサラー・

ウィージェースレーンドラ（女子15才）

現在世界はひとつの村のようになり、世界の民族はお互いに近くなっています。母国語のほかに国語を勉強する為に、また学業を問題なく続ける為に日本の里親さんがしてくださっているご援助にまず最初に心から感謝致します。

私は子供のころから日本語を勉強するのがとても好きでした。この願いはかない、日本の奨学金で恵まれた学生になるという幸運を得ました。私がそうであるように他の学生たちもきつと幸せであるに違いありません。というのは日本の奨学金をもらえると分かった日の嬉しい気持ちを、彼らもまた感じるでしょうから。日本の里親さんたちが愛情と親切から私たちに下さる奨学金は私たちの学業の為に大きな助けになっています。この援助金で日本語も勉強する時、その価値はお金で表すことは出来ません。それは私たちにとって将来きつと、とても役立つでしょう。母国語のほかに外国語を勉強するということは、籠の中の鳥に籠の外に出る許しをあげたようなものです。経済的に恵まれない私たちに、このような機会を与えてくださった里親さんも、それを知る時きつと満足してくださるでしょう。去年、日本スリランカ友好五十周年を記念し、スリランカ日本教育文化センターで三日間、日本祭がありました。私たちはそこで、日本の気候、文化、日常

生活を勉強しました。色々なコンテストもあり、優秀な人は表彰もされました。私たちのセンターには日本語クラスもあるので、学校での授業の他にも勉強することが出来ます。また、日本の里親さんと文通できるのも、とても嬉しい事です。手紙を通して、私たちが愛してくれる日本の里親さんがいると感じることが出来ます。自分の本当の母親や父親や、あるいは両親ともいない学生もいます。そんな学生が里親さんから手紙をもらった時は、嬉しい気持ちが顔に表れています。これらのことがすべて里親さんの愛情と親切によって与えられているのです。こんなに私たちに援助してくださる里親さんたちも、私たちのことを、いつかうれしくなって自慢に思える日がきつとあると思います。というのは、私たちがそのご援助によって、それを活かし、人生において成功した日々を送る時、それをご覧になってきつと満足していただけだと思うからです。その日が早くやってくるように私は祈っています。

コーツテ・センター（1）

4519 11.年生

* 日本語や日本文化が好きな学生です。情感豊かで元気な子供です。コーツテ・センターの日本語教室にも熱心に通い、学習しています（N）



日本祭りの書道展示コーナーに日本の子供の作品も展示された



（悪魔を祓う仮面踊り）

昨年の日本祭りの里子たちの作品

「こんにちは」を読んで

1月の認証式に里親新聞「こんにちは」が全員に配布されました。生徒はみんな喜び、帰りのバスの中で夢中になって読んだようです。子供たちの感想を寄せてもらいました。まとめてお知らせしましょう

《感想を寄せてくれた里子》

N: ナディーシャー・チャトゥラーニ・ウィーラシンハ	女子 14 才 (5228)
A: A/K/レーシャニ・シャーリカー・ピヤティッサ	女子 20 才 (3231)
S: マドウサンカ・シローマール	男子 16 才 (4305)
W: ワーサナー・クリシャーンティ・リヤナゲ	女子 16 才 (4331)
M: マヘーシカ・プラバーシニ	女子 17 才 (3956)



□ 「こんにちは」は何時読みましたか？

N: 帰りのバスの中で読みました。

A: 私もバスの中で読みました。家に帰ってからお母さんと読みました。

□ 読んだ最初の感想はありますか？

S: 私もバスの中で読みました。日本についてのいろいろなことを知ることが出来たのは嬉しいです。

M: みんなシンハラ語だったので、すぐ読みました。日本の人が書いたと聞いてびっくりしました。

W: 日本についてたくさんを知ることが出来ました。私たちが援助してくれる日本の里親さんたちの色々な考えを知ることが出来ました。

A: 私たちの国への最大の援助国、日本について学ぶ為にこの雑誌を喜んで読んでいます。

N: 日本のお母さんやお父さんの気持ちがこもった記事も貴重だった。

S: 私たちに下さる援助と、アドバイスはとても大切なことです。

□ 何か新しく知ったことはありますか？

S: みんな始めて知ることばかりです。スリランカの新聞には日本のことは余り書いてないから。

N: いろいろな記事があって楽しい。日本についての知識を私たちに教えるために大切な記事がたくさん載せられていた。

W: 「こんにちは」新聞から私たちは日本について知らないことをたくさん学べます。

□ “やさしい日本語”のページについてどうですか？

A: 日本という国だけでなく日本語についても学べることは嬉しいです。

W: また日本語を勉強するのにも役立ちます。私たちの国では日本語の勉強は大変盛んです。でも日本語を勉強するには日本の文化についても知らなければなりません。そうしてこそ日本語の勉強も完全になると思います。

N: “やさしい日本語”のページの挨拶の仕方は日本人に会うとき役に立ちます。

S: この新聞からやさしい日本語の使い方を知ることが出来たことも嬉しいです。

W: 日本人について、日本人の考え方や文化を学ぶ為、この新聞は役に立つと思います。「あいさつ」の記事を読んだら、日本語を知らない人でも日本人に会った時挨拶できるでしょう。コロンボでは今、選択科目の1つとしてたくさんの学校で日本語を教えています。その子供達にもこのような新聞は役に立つと思います。

□ 里親さんは、あなたたちに期待しています。どう思いますか？

W: 私たちはまだあったことのない里親さんたちですが、私たちの将来のことを考えて下さる援助のことを思う時、里親さんたちの温かい心を感じます。

W：日本の里親さんからのメッセージの中に、友好と信頼を守ろうという言葉がありました。

その言葉は私の心に大変深く残りました。

S：里親さんの国の子供達のように、私たちも学生としての義務を守り、一生懸命勉強したいと思っています。

A：社会のためになることは、難しいと思う。でも少しずつ努力しなければいけないと思います。

□ 日本について何か新しく知ったことがありますか？

M：季節について、もっと知りたいと思います。

雪にさわって見たくなりました。

A：どうして木の葉が赤くなるのか分かりません。きれいな日本に行ってみたくまりました。

□この新聞の意義について、意見がありますか？

A：私たちの為に援助して下さる日本人の里親さんと、日本について知るために、この「こんにちは」という新聞はとても役に立ちます。

W：この新聞を通して、私たちはお互いの国と国民を良く知り、理解することが出来ます。

日本の里親さんたちは自分の国のことを思うように、

スリランカの子供達に対し リヤナゲさんでも国の発展の為に援助して下さいます。とてもうれしいのです。



N：忙しい仕事の合間に貴重な時間を私たちのために費やして下さるお母さんお父さんを尊敬します。

S：里親さんが、おっしゃるように私たちはお互いの国について知ることが大事だと思います。そのためにこの新聞はとても大事です。

S：私たちは日本人達が手紙を書く時間もないことを知っています。でも私たちは皆さんにいつまでも手紙を書きます。この新聞から日本の有名な所、習慣、日本の里親さんのことなど知ることが出来たのは嬉しいです。

□ 何かもっと知りたいことがありますか？

A：この新聞のおかげで私たちが学校で学ぶこと以外にいろいろなことを学べ、一般教養もつきます。もっと日本の学生の生活を知りたいです。

S：私たちは学校でいつも同じようなことを学んでいますので、これはそれらとは違ってよいです。

□ 最後に一言、里親さんにメッセージがありますか？

W：このような新聞を作って下さったことが私は嬉しいです。そしてこの新聞を作る為に努力して下さった人々に感謝します。

M：「こんにちは」新聞によって、日本の事を私たちに教えることに努力して下さったことが大変嬉しいです。それはとても良いことだと思います。

A：この新聞がこれからも続けて作られるなら、私たちの将来の為に役立つと思います。「こんにちは」新聞がこれからもますます発展しますように心から祈っています。

W：里親さんたちはいつも私たちを応援してくれます。私たちの将来の希望をかなえ、問題を解決する為に常に努力していると書いてありました。それに対し心から感謝致します。

N：これからも長く続けて欲しい。

どうもありがとう（編集部）

機械体操の練習をする子供たち



光輝く島 スリランカ 紹介

私たちの国は、インドの南にあります。約 6 万 6 千 km² で北海道より少し小さい島国です。赤道より南で国全体は亜熱帯地帯ですが、清涼な高原地帯もあります。果物は豊富に採れます。紅茶も産業の柱です。ここでは 24 の県を紹介します。

プッタラマ県：

プッタラマ県の歴史は紀元前 6 世紀にまでさかのぼることが出来ます。歴史的に価値のある県です。スリランカの最初の王であるウィジェイ王がインドから来たのがプッタラマ県のタンバパンニというところです。ですから歴史的に意義深いところといわれています。プッタラマ県はコロombo から 115 キロメートル、車で 3 時間半の距離にあります。県内に一番多いのはシンハラ人で、その他にムスリム人やタミル人もいます。植民地時代にプッタラマからコロombo まで交易のためオーランダ川という運河を作りましたがそれは今も残っています。この県の主産品は塩で、湾内ではえびの養殖も盛んです。この県のパラウイヤという所はセメントの製造業で有名なところ。農業も盛んです。豊かな雨水を使って米の二期作を行っています。湖沼の水が豊富なので渇水問題はなく、農民も安心して農業に従事しています。やしの栽培も行われており、この県の土壌は肥えているので作物がよく育つ恵まれた土地だといえます。国土全体の 10 分の 1 に近い面積が国立公園・自然保護区になっています。そこには象やワニやクジャクなど多くの野生動物が棲んでいます。県の北にはウィルパットゥ国立公園があって、ヒョウの棲息数が多いことでも世界的に有名です。

S・M・アヌラーダ・クマリー・シルバ (男子 15 才)

プッタラム・センター(52)No.4425, 11 年生

里子の家までは車道から遠い場合が多い



(ジャックフルーツ)
高い木に巨大な実がぶら下がっている(食用)



ハンバントタ県

私たちのタンガッラ・センターは、ハンバントタ県にあります。スリランカ南部にある 3 つの県の 1 つです。コロombo から 238 キロメートル、車で 6 時間半の距離にあります。センターは他にアンバラントタ、シリヤウエバがあります。

この地域は準乾燥地帯なので乾燥気候に合った、とげの多い小さな藪のような植物が茂っています。雨季には河川は増水して洪水も起こります。しかし干ばつ時には水は一滴もない状態になります。砂浜はマングローブの木が茂って美しいです。ハンバントタ県は静ひつでのどかな地方です。ワラウエ川などの河川がこの県に水をもたらしています。県の人口は 52,5370 人です。主な産業は農業で、米や野菜を作っています。その他漁業、製服業、畜産業などがありますが、特に製塩業は大変有名で、国内の消費量の半分は生産しています。ハンバントタ県は自然が美しく、住民の多くは勤勉で向上心の高い事で知られる地方です。

M・アミラ・パドゥマラール (男子 17 才)

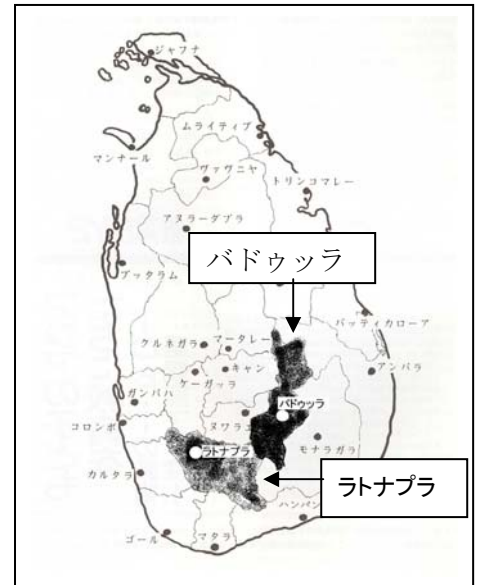
タンガッラ・センター(34)No.4068 11 年生

バドゥッラ県

世界の他の国々と比べるとスリランカは小さな国です。でも自然、歴史、資源は大変豊かです。私たちの国は9つの州から出来ています。そのうちの1つ、ウワ州はバドゥッラ、モナラーガラという2つの県からなっています。そのうち私が住んでいるのがバドゥッラ県です。お釈迦様が初めてスリランカにきたのがマイヤンガネという所で、そのマイヤンガネがあるのがバドゥッラ県です。この県には美しい山々がたくさんあります。そしていつも霧が降りています。

ドゥンヒンダ滝(写真)などの高い滝があります。一年中、冷たい水が川を流れています。自然の森など緑がいっぱいで美しいです。湖や川がたくさんあるので農業に適しています。ですから他の地方より稲作が盛んです。ワリマラ、バンダーラウェラでは野菜作りが盛んです。バドゥッラ県には茶畑がたくさんあります。山々はお茶の木で覆われており、茶の輸出により、外貨がたくさんもたらされます。茶畑のおかげでこの地方の人々には仕事の口もたくさんあります。イギリス植民地時代、茶畑で作業させるため、タミル人がたくさん私たちの県に連れてこられました。ですからこの県にはシンハラ人のほかにタミル人もたくさんいます。他の地方と違って、シンハラ人とタミル人はむかしから仲良く暮らしています。山に囲まれた県なので、とても静かです。現代の世界は発達したメディアのため、どんどん進歩しています。でもバドゥッラ県はゆっくり進んでいます。スリランカ政府が発展に援助するなら、元々資源に恵まれた県なので早く発展できると思います。

シトウミニ・ニランジャラー・ディサーナーヤカ、女子、21 オ
コートテ・センター(1)、U42、
(スリ・ジャヤワルダナプラ大学経営学部在学中、)
(大学入学前はC40、バドゥッラ・センター、里子番号 1322)



ラトナプラ県

サバラガムワ地方ラトナプラ県の別名マニクプラ(宝石の地)とも言われるラトナプラという町に私たちのセンターがあります。平均温度は 26℃位です。海拔が 500m~2500m で気候風土は快適な所です。ラトナプラにはスリーパーダという有名な聖山があります。この山はお釈迦様が来て足跡をつけたところといわれ、この山があるので、この地方は仏教徒にとっても大変意義深いところです。

ラトナプラ県はコロンボから101キロメートル、車で2、3時間の距離にあります。この県にあるスリーパーダを含むサマナラカンダ山脈からスリランカに水をもたらす主要4河川が始まっています。

有名な原生林シンハラージャがあるのもこの県です。ボバスエラ、マパラナ、カツガエラなどの美しい滝も沢山あります。豊かな自然の美しい私たちの地方は人口85万人です。高価な宝石がこの県に産するので宝石関係の産業がたくさんあります。その他紅茶、ゴムなどの産業があり、また農業は水田と畑の両方があります。住民はこれらの職業によって生計を立てています。ラトナプラ県は自然が美しく農業はじめ産業の豊富な地方です。地区センターは、他にパナボラ、パレベダ、アヤガマ、パラゴダがあります。

J・M・セーパーリ・チャトゥリカー、17 オ
ラトナプラ・センター(18)(No. 3725 13 年生)

編集しているときに、ラトナプラ地方を中心に大雨が降り、大洪水がありました。土砂崩れも起きたため 250 人近い犠牲者が出ました。里子たちの状況は分かっていません。P-10 に情報を書きました。

スリランカ南部で大洪水

50年ぶりの最悪な災害

緊急情報

5月16日から南部に降り始めた雨は、降りやまず、南部地方で大きな災害が発生しました。18日夜にはラトナブラで大規模な土砂崩れが起き、マタラでは洪水によって家屋が流されました。140,000人以上の家族が被害をうけています。235人以上なくなっています。何人行方不明かまだ分かりません。

70,000戸ぐらいの家が壊れてしまいました。90ヶ所の学校が全く使えない状態です。被害をうけた皆はそのとき着ていた服だけしか持っていない。全部水に流れて家などがあった所も探せないぐらいです。

学生は学校に行くことも出来ません。人々がいる所に近づくことは出来なく、何日間もヘリコプターで食べ物、着るものなどを配りました。水があまりにも強く流れていくのでボートで行くことも出来ない状態でした。電気、電話、水道が壊れています。一番大きな問題は飲み水です。4時間ぐらいで15フィート以上水がたまりました。銀行、病院、店など全部つかえません。

洪水とともに土砂崩れもあり道路も壊れました。土砂崩れで100ぐらいの家族はそのまま土に埋まってしまい、山があまりにも大きくて機械で土を除くこともできません。全て元にもどす為には何ヶ月かかるか分かりません。(6/4)



水の中を非難する人々(5/21 日本の朝日新聞掲載)
下写真:スリランカの新聞に掲載された写真から抜粋

編集にあたって

SNECC 編集委員 永翁高堅

スリランカの子供は礼儀を大切にします。文章を書くとき、形式と格調を重視します。里子たちの気持ちを読み取ってください。

今回の編集に当たって、シンハラ語の翻訳に大変苦労しました。スタッフの私たちはできるだけ里子の手紙を忠実に訳すように努力しました。しかし、皆さんは、里子の文章を読まれて、「内容が硬く、子供の書いた文章には見えない」と思われるかも知れません。

シンハラ語の話言葉と書き言葉には大変な違いがあります。つまり作文をはじめ、文字で書かれたシンハラ語というのはすべて文語調なのです。形式を重んじた格調高い文体で書かれるのが普通です。翻訳の際に原文の硬さは大分軽減されますが、学生の書く原文は私たちの翻訳文よりもさらに高度なものです。

スリランカでは学校教育で作文を重視し、低学年から文章を書く訓練を徹底して行います。作文の各種コンテストも大変盛んです。たとえ低学年の学生であっても私たちから見れば大変大人びた文章を書くことになります。子供たちの『文章の書き方』の中に文化や風土の異なりを見つけていただきたいと思います。

(注:文中で奨学金という表現がよく出てきます。これは学用品等の支援をそのように言っていますので、ご理解下さい)



点滴を受ける被災者の救出に協力する住民



土砂崩れの現場、重機がないため救出ははかどらない



流されたバスを押し上げている住民

燃える火に干草をくべる

スリランカことわざ集

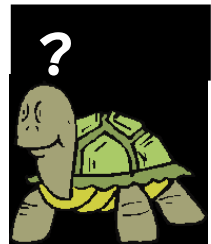
その1

どこの国でも、どこの言葉でも、会話や文章の中で“ことわざ”をよく使います。

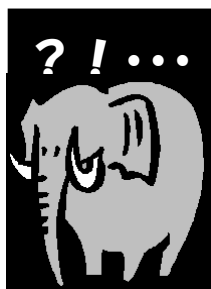
それは、その国の歴史や生活、環境に由来しています。その国の文化を知る上で大いに役立つことでしょう。スリランカにも沢山の“ことわざ”があります。日本の“ことわざ”に似ているものもあります。比較して、私たちの文化を知る材料にしてください。



- (1) 亀に羽を要求する(出来ない、無理な注文をする)
- (2) 燃える火に干草をくべる(火に油を注ぐ)
- (3) 言葉だけでサツマイモを植える(言うは易く行なうは難し)
- (4) カメレオンの首に金の首飾りをかける。
(能力のないものを過大に誉めたので、いい気になってしまうこと)
- (5) キツツキがバナナの木をつつく。
(バナナの木は繊維が多くてくちばしが抜けなくなることから、似合わないことをして災難を招くこと。類似例：やぶへび)



- (6) 食べ物をくれる手に噛み付く。(恩知らず。飼い犬に手をかまれる)
- (7) 木から落ちた人を牛が突いた。(泣きっ面に蜂)
- (8) 犬の仕事をロバが引き受ける。(泥棒が来た時、ほえて主人に知らせるのが犬の役目だが、犬の代わりにロバが鳴いて、うるさいといって主人から叩かれたというお話から、なれないこと、似合わないことをして災難を招くこと。



- (9) バイオリンをひいてつんぼの象に聞かせる。(馬の耳に念仏)

- (10) 踊れない人には地面が斜め(踊りが下手な人が、上手く踊れないのは地面が平らでないからだと言う。自分の能力のなさ他ことのせいにする)

- (9) 猿にはしごを渡す。(助けが必要でない人を助けようとする。釈迦に説法、猿に木登り。要らないおせっかいをする)

- (10) 喉を通さずに薬は飲めない。(避けては通れないこと)

- (11) 川に向かって木を切る。

(せっかく材木を取ろうとして木を切っても川に落ちて流れていってしまうことから、役に立たないことに努力すること。骨折り損のくたびれもうけ)



コーツテ・センター(1)No.4936 R・ティリニ・アヨーマ・ペレーラ (女子、10年生 15才)

(日本語注釈は永翁さんがつけました)



スリランカ・日本教育文化センター

SNECC

センター便り

SNECC は勉強を続けている奨学生への援助活動と、C.P.I.に報告する役割を果たしています。里子の報告のことは私たちの責任です。いままで、私たちは、里子の生活や進学試験の結果などをお知らせしてきました。里子たちの気持ちや生活の実態、地域センターの悩みなどを、より深くお解かり戴くために、C.P.I.教育里子新聞『ありがとう』の発行に協力することになりました。ストゥーティ。



C.P.I.の全面的協力を得て建設され 10 年目を迎えた、首都コーッテの SNECC 本部の外観です。深い緑に囲まれ、平日の様々なクラスのほかに日曜学校では 1000 人もの子供たちが楽しく勉強しています。

この子たちに教育里親を

里親のいない奨学生が約 600 人います

地区センターで選ばれた奨学生は、コーッテセンターでさらに厳しく選考されます。選考に協力している学校教師の努力に報いるためにも、C.P.I.奨学生 1600 名を維持したいです。

C.P.I.里親さんの絶対数が不足しているため、里親のない里子が全国に約 600 人もいます。

この子たちは勉学を頑張っていますが、こころの中では、里親さんがいないことを寂しく思っています。

C.P.I.会員の皆さんにお願いがあります。どうか皆さんの力で、この子たちの里親さんを増やしてあげてください。



(上) スポーツ万能のニサンサラさんは走り高跳びで優勝したメダルを誇らしげに見せてくれた。得意な科目は国語と社会。

(下) 物静かだが芯の強い 9 年生のチャナカ君。



コーッテ・センターの日曜学校風景
クラスによって、木陰で学習することもある。